

COMMITTEE
for CHILDREN JAPAN

Newsletter

「日本こどものための委員

【事務局】

〒156 0042

東京都世田谷区羽根木 2-25-8

TEL 03-5329-1461

FAX 03-5329-1491

第2回通常総会で第3期の重点方針決まる

2002年10月27日（日）代田区民センターで、第3期（2002年9月1日～2003年8月31日）に向けて、「第2回通常総会」が開かれました。出席者は正会員26名中10名、書面表決者は11名でした。

審議事項は、第2期事業報告、第2期会計決算、第3期重点方針、第3期事業計画、第3期会計予算で、説明と審議の結果、満場一致で可決承認しました。

また設立以来、本会の基礎を築かれた原田・河村両理事が10月12日付で辞任されたことが報告され、その努力と貢献をたたえる旨の発言があった後、後任理事として小山望氏（東京理科大学助教授、カウンセリング心理学専攻）及び金子義男氏（若木保育園園長）を満場一致で選任しました。

さらに事務局の強化充実のため、理事会は早急に必要な措置を講ずるという提案についても満場一致で承認可決しました。

第3期重点方針

1．CFCとの連携の強化

本会の現活動の基盤は、CFCとの信頼関係に基づく「新契約」であることに鑑み、同契約を誠心誠意、遵守すると共に、その更新交渉を始める。また、CFC国際会議への参加、CFCよりの講師招聘などを通じて、国際交流を進め、セカンドステップの精神と実際について理解を深める。

2．NPO使命感の確認

本会がNPO法人であることを深く自覚し、学習会などを通じてNPOとしての使命感を確認し、ボランティア精神に基づいて、セカンドステップを楽しく広めることとする。また、それを可能とするための基盤をしっかりと整える。

3．組織・ルール確立・充実

本会の組織、会員・資格審査・指導員・講師・組織系統・決定・広報などに関する実践的ルール明瞭

4．事業の確立 前進

財源の強化を図りつつ、講演会などと連動して広報を進め、CFCからの講師招聘、講師の育成なども進めて、質の高い研修会を開催するよう務める。また、教材については、コース1の増刷、新プログラムの開発などを着実に進める。さらに、地方における会員の活動を支援し、地方研修会の開催など、本会の全国的拡大を進める体制をつくる。（注：「着実」とはCFCからの要請でもあり、事業をむやみに拡大するのではなく、各種資源の充実のペースに併せて、の意味である。）

5．執行体制の強化

専従事務局員の雇用、業務のアウトソーシング化などにより事務局体制を強化し、会員へのサービス、会員相互の意志疎通、各種会合の円滑な開催、WEB・広報活動の充実などに努める。また、理事の増員により実践経験者、専門家、NPO関係者、企業経営者、行政関係者など多様な人材による多様な議論の活性化を図る。検討班・各種ボランティアなど外部からの専門的知見の導入を図りつつ、健全な経営を目指し、執行体制を強化する。

検討班からの中間報告

本会の経営企画等の機能強化のため、8月の理事会で2つの検討班が設置されました。検討班とは、特定のテーマにつき検討するため、本会内外の少数の適任者によって短期間、設置される「審議会のようなもの」です。「新プログラム検討班」は「コース1教材」の出版・研修等続くプログラムの開発の基本方針を検討するためです。また「地方戦略検討班（仮称）」は地方における活動戦略に関する基本方針を検討するためです。いずれも、2003年1月に理事会へ最終報告が提出されました。以下はその大要です。

地方戦略検討班

セカンドステップの全国展開を確実に進めるために

金子義男（主査）

日本こどものための委員会がNPO法人を立ち上げた意図には、セカンドステップの全国展開が当然視野にあったと思います。その実現に向けた、基礎的な方策を検討事項として検討班が委嘱されました。以下、検討内容の概略をお知らせします。

(1)全国展開のための基盤整備

法人本部の安定と強化をはかることが、堅実な展開につながる。このために、初歩的なことであるが、役員・会員の全員が法人設立の理念を、再認識し、共有し、再結集するように努める必要がある。

普及活動計画として、研修会に繋げる**講演会**を拠点地域で開き、研修会を終了した後の**実践勉強会**を、**拠点地域で充分にできるような体制**を作り上げる。

そのためには、研修会・勉強会を指導できる**指導講師の養成**が急務で、法人本部が養成計画を立て、養成する。当面、養成人員を10～15名とし、地域で活動できる指導講師の養成・発掘を計る。指導講師には、本部が法人の内外部から適任者を人選する。

(2)拠点地域の設置実現

第1次拠点を、本部が養成した指導講師の出身地域を考慮して**2か所設置**し、モデルケースとする。拠点地域の責任者は、理事長が委嘱する。

第2次拠点地域は、モデルケースの実践を基礎に、指導講師の出身地を考慮して、**数カ所設置**する。

(3)行動綱領（倫理綱領）の策定

全国展開をして行く上で、法人本部と地域拠点の連絡・調整ができる**命令系統を明示**することが必要になる。法人の理念に反した、方向に向かわないためである。

更に、共通の歯止めとして、絶えず、振り返るべき根拠となる**行動綱領（倫理綱領）の策定**が求められる。

新プログラム検討班

「小学校3年生用改訂版の翻訳・出版をすること」を理事会へ答申 プログラム実施の際の「アドミニストレーターズ・ガイド」も翻訳へ

井部 文哉（主査）

暴力が拡散浸透する傾向は、管理体制や指導体制の強化だけでは止めることができません。児童生徒一人ひとりに人間関係技術を学ばせ、人格の成長発達を促すことにより、暴力エネルギーを望ましい方向に昇華することが、根本的な解決になります。セカンドステップは、このような技術の有力なもの、ということでご縁があり、CFCJに参加しました。

プログラム検討班では「小学校3年生用改訂版の翻訳・出版をすること」を理事会へ答申しました。また、全学年に共通の「アドミニストレーターズ・ガイド」の翻訳の基礎的検討を済ませたところです。このガイドには、プログラム実施上の基本的な考え方や実施環境の整え方など、セカンドステップを巡る有用な情報が入っています。単にある学級の児童にセカンドステップを実施するというのではなく、セカンドステップの実施を足がかりに、学校内に暴力を防止し、昇華する風土を作るためにガイドを利用してください。

第2期会計決算&第3期会計予算

第2回通常総会において、第2期会計決算及び第3期会計予算が可決承認されました。

第2期会計決算		第3期会計予算	
貸借対照表	収支計算書	収支計算書	
(2002年8月31日現在)	(2001年9月1日~2002年8月31日)	(2002年9月1日~2003年8月31日)	
(単位：千円)	(単位：千円)	(単位：千円)	
資産の部	収入の部	収入の部	
【流動資産】	研修事業収入	研修事業収入	4,770
現金預金	2,943	出版事業収入	4,662
その他	<u>2,772</u>	その他	<u>1,961</u>
流動資産合計	5,715	当期収入合計	<u>11,393</u>
【固定資産】	支出の部	支出の部	
固定資産合計	<u>266</u>	出版事業費	3,863
資産合計	5,981	その他	<u>2,172</u>
負債の部	事業費	事業費	6,035
負債合計	<u>178</u>	管理費	4,138
正味財産	<u>5,803</u>	予備費	<u>508</u>
	当期支出合計	当期支出合計	<u>10,681</u>
	当期収支差額	当期収支差額	<u>712</u>
	前期繰越収支差額		
	<u>1,978</u>		
	次期繰越収支差額		
	<u>5,803</u>		

ADHD の子どもたちにセカンドステップを使って

山形大学教育学部教授 宮崎 昭

私がセカンドステップと初めて出会ったのは、アメリカ・シアトルにある CfC を訪問する研修会に参加した 2001 年春でした。当時は、養護学校教員の職にありました。その後、山形大学教育学部に移り、心理教育相談室で教育相談を担当することになりました。時を同じくして、日本子どものための委員会が発足して、その第一回セカンドステップ研修会に参加いたしました。こうした中で、私は、子どもたちの「こころの教育」を学校の授業として展開できるセカンドステップに、大変に期待を持ちました。しかし、その時は、ADHD の子どもたちにこれを使うことになるとは思ってもいませんでした。

2001 年の夏、山形市に ADHD 親の会が出来ました。秋になると、山形大学心理教育相談室に、「ソーシャル・スキル・トレーニングをしてほしい」との要望が寄せられ、私がおその任にあたることになりました。ソーシャル・スキル・トレーニングとは、社会的感情的な対人行動がよりよく行えるようにするために、小集団でロールプレイ（役割演技）を行う技能訓練です。私は、この題材に「セカンドステップ」の内容を取り入れたのです。

対象の子どもたちは、小2から小6までの8名で、2002年4月～7月を第一期として、1回1時間半、全8回のプログラムを構成しました。子どもの課題に合わせて、セカンドステップのすべてをきちんと実施するのではなく、一部を他の内容と合わせて再構成したプログラムになっています。

- 1、はじめの会
- 2、イライラ虫退治（身体のリラクゼーション）：
自分の体と気持ちをコントロールすることをねらいとして動作法を適用しました。
- 3、集団活動・おやつ：
気持ちを切り替えておやつを楽しんだり、歌と体の動きを覚えることをねらい、動作のある歌遊び、あるいはゲームを行いました。
- 4、友達と仲良くなるには
（セカンドステッププログラムの「相互の理解」）：
友達関係などの人とのかかわりを改善することをねらって、相互の理解から8回分を選択して行いました。
- 5、終わりの会

細かい経過を紹介できませんが、8回を終わって、保護者から「人の気持ちがわかるようになった」「友達関係がよくなった」「『ごめんなさい』と言えるようになった」などの感想が寄せられました。こうした変化は、「相互の理解」で自分と人の気持ちに気づく学習をしたことが効果を上げたものと思います。

また、ADHDのお子さん、落ち着きがなく、多動な面があります。「怒りのコントロール」における深呼吸を行う時も、力んで緊張した深呼吸になってしまう様子も見られました。そこで、動作法によるリラクゼーションの練習をして、気持ちを「おちつける」プログラムを取り入れ、「イライラ虫退治」と名づけたところ、子どもたちに人気でした。こうした工夫は、子どもたちの特徴に応じて必要になるのではないかと思います。

なお、現在第二期で、「問題解決の方法」を実施しているところです。すべてが、順調に進んでいるわけではありません。問題を感じては少しずつ改善することを目標に、保護者と子どもたちと仲間と共に、一歩ずつ進んでいる毎日です。

* ADHD ; 注意欠陥多動性障害

お知らせとお願い

理事会から

〈組織&人事の変更がありました〉

設立以来、本会の基礎を築かれた渡邊一司監事が、2002年10月31日付で辞任・退会されました。御苦労さまでした。
2003年1月13日付けで、「新プログラム検討班」と「地方戦略検討班（仮称）」は任務を終了し、引き続いて「新プログラム作業班」（主査：井部文哉氏）と「研修会作業班」（主査：金子義男氏）が設立されました。
2003年1月19日より金子義男氏に代わり、溝淵雅章氏が事務局長となりました。
この他、黒田隆之氏が経営アドバイザー、後藤浩氏（シアトル在住）がCFCとの交渉のための渉外アドバイザーとして、参加することとなりました。

〈第4回セカンドステップ指導員研修会を開催します〉

第4回は2003年3月23日（日）24日（月）国立オリンピック記念青少年総合センターにて、アメリカCFCよりマスタートレーナーのローリー・ペイカー氏を講師に招いて行います。詳しくは別紙「第4回セカンドステップ指導員研修会のご案内」をご覧ください。参加希望の方は、受講申込書にてお申し込みください。また、お知り合いの方へ、是非ご紹介ください。

〈2003年8月までの研修会の予定は以下の通りです〉

第5回は5月3日（土）4日（日）、第6回は8月18日（月）19日（火）、いずれもオリンピックセンター（東京代々木）で行う予定です。

〈第1回の交流会を開催しました〉

2002年11月23日（土）下北沢タウンホールで、今期第1回の交流会を開催しました。「21世紀におけるNPOの使命」のテーマで、日本NPOセンター常務理事の山岡立典先生から非常に有益なお話を伺いました。

事務局から（事務局長 溝淵雅章）

〈年会費の振り込みをお願いします〉

会員の皆様に今期（2002年9月～2003年8月）の会費をお納めいただきたく、お願い申し上げます。賛助会員の方は3,000円、正会員の方は5,000円を請求させていただいております。まだ納めておられない方は、2月末日までに振込みをよろしくお願い申し上げます。すでにお支払済みの場合は行き違いをお許しください。

振込口座

日本こどものための委員会
UFJ銀行（旧三和銀行）
東松原特別出張所
普通預金 3688724

〈入会ご希望の方は〉

日本こどものための委員会に入会を希望される方は、まずは事務局までご連絡ください。入会申込書の送付と入会金・年会費のご案内をさせていただきます。

〈メールの活用について〉

本会の連絡手段は、郵便や電話に加えて、インターネットによるメール、メールマガジン、メーリングリスト等による迅速かつ効率的な方法を活用する予定です。詳細については後日メールでお送りいたします。なお、現時点でメールアドレスの変更がある方、新規に登録される方はお手数ですがmail@cfc-j.org までお名前（フルネーム）を表記の上ご連絡ください。

〈通訳と翻訳者を募集しています〉

第4回セカンドステップ指導員研修会の通訳を募集しています。また、新プログラム開発の翻訳ボランティアも求めています。関心のある方は事務局までご連絡ください。

〈第2回研修会名簿がほしい方は〉

第2回研修会の名簿を大坂和子さんが作成されました。ほしい方は柳川真佐子さんにご連絡ください。電話は、0471-83-9936です。

（編集 広報部）

